

# 保険・年金 フォーカス

## コロナパンデミック下の インドネシア生保市場（1）

—2020年のインドネシア生命保険市場の概況—  
—保険料収入、普及度合い、主力商品の状況—

保険研究部 主任研究員 松岡 博司  
(03) 3512-1782 matsuo@nli-research.co.jp

### はじめに

案外知られていないかもしれないが、インドネシアは、オーストラリア、中国、インド等とともに G20 の一員である。本年 10 月末には G20 サミットが同国のバリ島で開催される予定となっている。

インドネシアの人口は約 2.7 億人（2020 年）で世界第 4 位。2020 年の中位年齢は 29.7 歳、65 歳以上人口の割合は 6.3%と、人口構成はたいへん若い（内閣府『世界の統計 2021』による）。2010 年には 1 人当たり名目 GDP が 3,000 ドルを突破し、2020 年には世銀から上位中所得国入りが認定された。経済の成長とともに中間層が増加しつつある。それでいて、生命保険の普及率はいまだ低い。インドネシア生保市場のキャパシティ、魅力はわかりやすい。

当フォーカスでは 2019 年 6 月に、『[市場の拡大が続くインドネシアの生保市場—インドネシアの生命保険市場\(2017\)—](#)』<sup>1</sup>と題して、成長を続けるインドネシア生保市場の状況をレポートしたが、その後 3 年の間に、同生保市場も、業績の停滞やコロナパンデミックに伴う後退を経験した。歴史ある生保会社が破綻し、ユニットリンク保険を巡る苦情が多発する等、生保事業への信頼を揺るがす事態も顕在化した。

内閣官房「新型コロナウイルス感染症対策」ページ中の「各国別感染者数・死亡者数」から、インドネシアの 2022 年 4 月 12 日 15 時現在の新型コロナウイルス感染状況を見ると、累計感染者数が 603 万 3,903 人、累計死亡者数が 15 万 5,674 人となっている。これを日本の累計感染者数 707 万 2,699 人、累計死亡者数 2 万 8,721 人と比べると、累計感染者数はおよそ 100 万人少ないものの、累計死亡者数は日本の 5 倍強という状況になっている。インドネシアの人口が日本の倍以上あることを考えれば、感染の発生頻度はわが国の半分程度の感覚であろうか。人口構成が高齢化している日本の方がインドネシアより人口あたりの死亡者数が少ないのは、医療機関の整備度合いを表しているのかもしれない。パンデミックの最中、インドネシアでも、大規模な行動制限や外国人の原則入国禁止等

<sup>1</sup> <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=61691?pno=3&site=nli>

の措置が適宜とられた。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、近年 5%前後で推移してきたインドネシアの GDP 実質成長率も 2020 年には▲2.07%と、アジア通貨危機時の▲13.13%以来 22 年ぶりのマイナス成長となった。ただし、2021 年には+3.7%へと持ち直しており、2022 年以降は再び安定成長へ回帰すると見込まれている。

本レポートでは、こうしたコロナの影響を受けた 2020 年までの計数データから、最近のインドネシア生保業界の概況をまとめる。

本レポートで使用する統計データの主な出所は、インドネシアの保険監督当局である OJK (Otoritas Jasa Keuangan=金融サービス機構)から公表されている『Statistik Perasuransian=Insurance Statistics=保険統計』である。新興国のこの種の統計データではしばしばあることであるが、この統計集でも同じ統計項目の数値が、表ごとに微妙に違っている場合がいくつかある。本レポートではそうした相違に目をつぶり、掲載されたそれぞれの表の数値をそのまま使用しているので、図表ごとに平仄が取れない場合もあることをご容赦いただきたい。

OJK のデータはインドネシアの通貨であるルピアベースで作成されている。2022 年 4 月 13 日の為替レートは、1 ドル=14,362.50 ルピア、1 円=114.11 ルピアであり、1 兆ルピアを日本円にすると約 87.63 億円となる。

本レポートでは、あわせてスイス再保険が毎年 sigma 誌面で公表している世界の保険料統計資料を使用する。こちらはドル換算ベースでまとめられている。

以下、インドネシアの生保市場の概況を、今回と次回の 2 回に分けて、計数図表とともに見ていく。

## 1——生命保険料収入（総生命保険料）の推移で見た市場動向

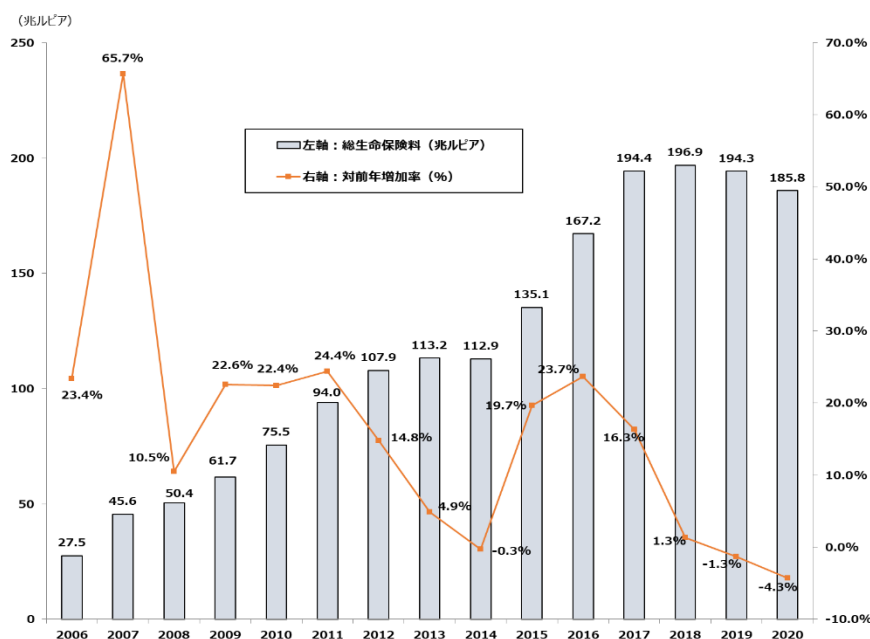
グラフ 1 は、2006 年から 2020 年まで 15 年間のインドネシアの生命保険料につき、金額を棒グラフ、その対前年の増加率を折れ線グラフで表したものである。右軸の対前年増加率の最小値がマイナス 10%であることにご注意いただきたい。

インドネシア生保市場の生命保険料収入は、2013 年 (+4.9%)、2014 年 (▲0.3%)、2018 年 (+1.3%)、2019 年 (▲1.3%)、2020 年 (▲4.3%) の 5 カ年以外は、2 桁の対前年増加率で増加してきた。

2018 年から 2019 年にかけての低成長は、ジャカルタ株式市場の変調や破綻生保会社の発生を受けて引き起こされたもの、2020 年の大きなマイナスはこれにさらにコロナパンデミックの負の影響が重なって引き起こされたものだと考えられる。

ただし、グラフの対象期間外であるが、その後、2021 年には再びプラス進展に回復しているとのことである。

## グラフ1 生命保険料収入の推移（ルピアベース）



(資料) OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA” 各年版のグロス生命保険料を使用

## 2—生命保険の普及度合い

表1は、スイス再保険が公表している世界の生命保険料に関するデータから、アセアン各国、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナムと、インドネシアの生保市場に関して、ドル換算した生命保険料金額、そのドル換算生命保険料金額が世界全体の生命保険料合計額の何%を占めるか(世界シェア)、「(生命保険料金額を人口で除した)人口1人あたり生命保険料金額」、「生命保険料金額の対GDP割合(生命保険料金額がGDPの何%にあたるか)」をまとめたものである。

2020年のインドネシアの世界シェアは0.53%で世界順位は第25位である。2000年には世界シェアが0.05%、世界順位は第38位であった。いまだシェアは小さいながら、存在感は増してきている。

「人口1人あたり生命保険料」、「生命保険料の対GDP割合」は、アセアン内の他国と比べてもまだ小さい。

表1 アセアン主要国の生命保険市場の状況（2020年）

|        | 生命保険料<br>(ドル換算) | 世界シェア<br>(ドル換算生命保険料の<br>世界シェア) | 人口1人あたり<br>生命保険料<br>(ドル換算) | 生命保険料の<br>対GDP割合 |
|--------|-----------------|--------------------------------|----------------------------|------------------|
| シンガポール | 25,827ドル        | 0.92%                          | 4,528ドル                    | 7.6%             |
| タイ     | 17,029ドル        | 0.61%                          | 244ドル                      | 3.4%             |
| インドネシア | 14,866ドル        | 0.53%                          | 54ドル                       | 1.4%             |
| マレーシア  | 13,456ドル        | 0.48%                          | 415ドル                      | 4.0%             |
| フィリピン  | 4,518ドル         | 0.16%                          | 41ドル                       | 1.2%             |
| ベトナム   | 5,490ドル         | 0.20%                          | 56ドル                       | 1.4%             |

(資料) スイス再保険 sigma NO. 3/2021 より

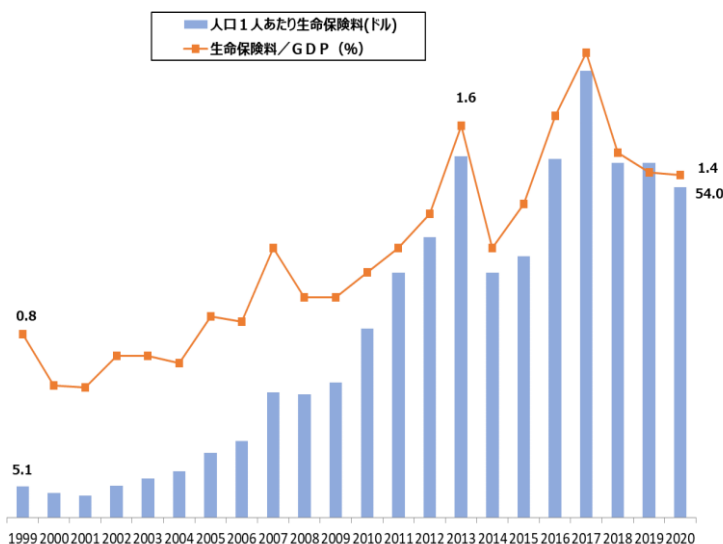
次のグラフ 2 は、スイス再保険の各年のデータから、1999 年以降のインドネシアの「人口 1 人あたり生命保険料」と「生命保険料の対 GDP 割合」をプロットしたものである。1999 年の「人口 1 人あたり生命保険料」5.1 ドル、「生命保険料の対 GDP 割合」0.8%が、2020 年にはそれぞれ 54 ドル、1.4%にまで上昇した。

右側に参考添付した図表は、国際協力銀行（JBIC）の『インドネシアの投資環境 2019』から転載したものである。「1 人あたり GDP が〇〇ドルを超えると生命保険の成長が加速する」という言い方があるが、たしかに、アジア通貨危機以降、1 人あたり GDP が 1,000 ドル、2,000 ドル、3,000 ドルと増えていくのとペースをあわせるように、これらの指標も上昇しているように見える。

なお、このデータはドル換算ベースであるため、その年々のルピアの対ドルレートの上り下りで上昇したり下降したりする側面もあることにご注意いただきたい。

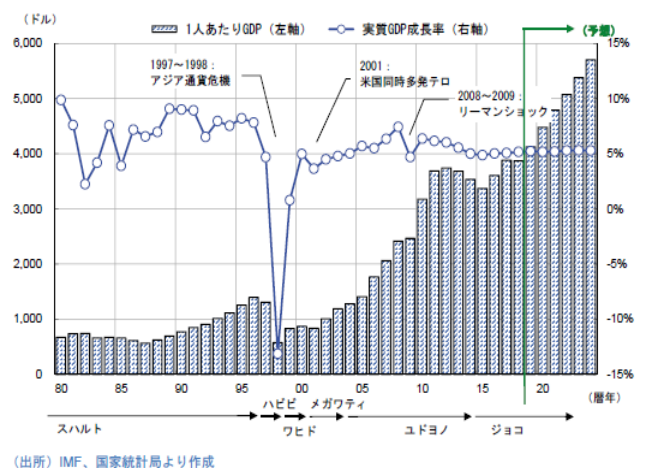
いずれにせよ、インドネシアの生命保険普及度合いは、いまだ低い状態にある。この低い普及度合いと、この水準をスタート台にして、普及の速度が上がり始めた状態が、先進各国の生保会社を惹き付けるインドネシア生保市場の魅力となっている。

グラフ 2 「人口 1 人あたり生命保険料」と「生命保険料の対 GDP 割合」の推移（ドルベース）



(資料) スイス再保険 sigma 各年の世界の生命保険料データ号から

【参考：実質経済成長率と 1 人あたり GDP の推移】



(出所) IMF、国家統計局より作成

(資料) 国際協力銀行「インドネシアの投資環境 2019」より転載

### 3——主力商品の状況

インドネシア生命保険市場で販売されている生保商品は、投資性・貯蓄性が強いものが中心で、保障性の商品の比率は低い。また個人年金等、年金商品はいまだ未発展である。投資性の商品は、具体的には欧州外資が持ち込んだユニットリンク(変額)保険である。これは欧州で主力商品となっている商品で、投資対象とする資産の価格変動やユニット価格の変動にあわせて保険積立金の額が変動する。

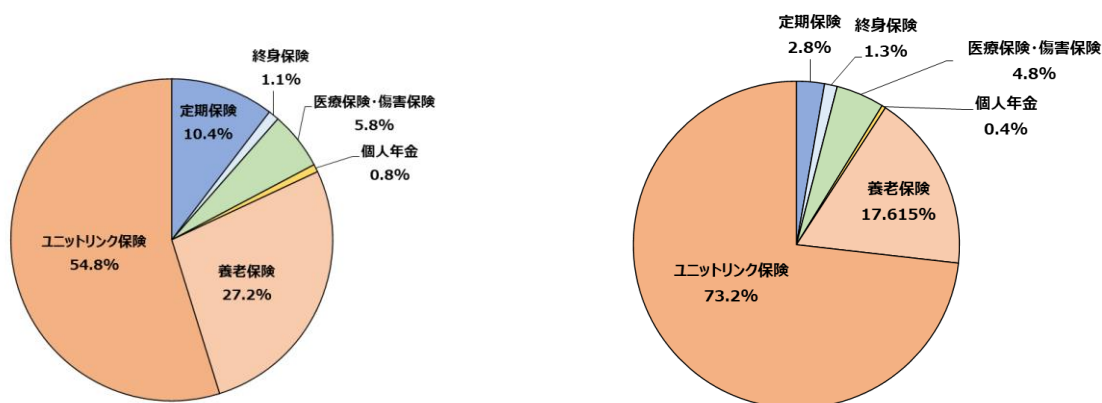
グラフ 3 の左側の円グラフは、2020 年にどの商品がどの程度販売されたかを、新規販売された契約からの初年度保険料の商品別構成比として表したもので、右側の円グラフは新契約だけでなく既存の契約を含む全ての契約から収入される生命保険料を、その源にある商品別に分類したグラフである。

いずれのグラフも、ユニットリンク保険の割合が圧倒的に多く、次が養老保険で、両者をあわせた貯蓄性・投資性商品が 8 割から 9 割を占めている。保障系商品である定期保険、終身保険、医療保険・傷害保険・傷害保険の比率は小さい。

グラフ3 インドネシア生命保険市場の商品(2020 年)

【新契約からの初年度収入保険料の分布】

【既存契約・新契約全契約からの収入保険料の分布】



(資料)OJK “STATISTIK PERASURANSIAN INDONESIA 2020” より

このように、大方のアジアの生命保険市場と同様、インドネシアでも、貯蓄性・投資性の強い商品が主力の生保市場が形成されている。なお、インドネシアでは保障機能は、ユニットリンク保険の特約として売られていることが多い。

近年、インドネシアの生保市場では、ユニットリンク保険が支配的な商品となったことから、株式市場のパフォーマンスの好調・不調に引きずられるように生命保険の販売業績が上下する傾向が顕著になっている。

2020 年のコロナパンデミックの初期には、株価が低迷する中で、ユニットリンク保険の契約者からの苦情が急増した。これが販売時に適切な説明が行われたかどうかから始まって、生保業界への信頼を損ねかねない事態となり、2022 年 3 月に OJK がユニットリンク保険を対象とする新たな規制を導入することとなった。

## おわりに

今回は、インドネシア生命保険市場の最近の動向を、生命保険料収入の動向、販売商品の動向から見てきた。次回は、販売チャネル、資産運用、会社数の統計データから、さらにインドネシア生保市

場の現状を見ていくことにしたい。

なお、冒頭でも触れた通り、インドネシア生保市場では、2018年から2019年にかけて、国有生保ジワスラヤが、満期を迎えた顧客への13兆ルピアにのぼる保険金の支払いをデフォルトし、元取締役3人が汚職容疑で有罪となるというスキャンダル事件に進展した。パンデミックの中、契約者への支払いを行えなかった生保会社が他にも複数ある。

また前述の通り、株価不調の中、ユニットリンク保険に関する苦情問題も、生命保険業界への信頼を揺るがせた。こうした事案のフォローも行っていきたいと考える。